

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400552		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	板山ホームらく楽 (北ユニット)		
所在地	愛知県半田市椎ノ木町4丁目13-2		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・季節感を感じられる行事を豊富に行っている。 ・行事に合わせてブログを更新し、外部にも発信を行っている。 ・畑をやっており、種まきから収穫、調理を楽しんでいる。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/z3/index.php?act=for_kouniyou_detail_022_kani=true&ligvosvcId=2372400552-
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅が点在する高台の上に事業所が位置している。モダンな外観の平屋建てで、回廊するウッドデッキや緑豊かな庭や畑が広がる佇まいはリゾート地を思わせるような雰囲気である。職員は、入居者と「共に生きる」を信条に、入居者の趣味や今やりたい事などを日々の生活に活かし、喜びや自信に繋げるようなケアに心がけている。地域の神社の祭礼や盆踊りなどに参加し、入居者は昔を懐かしみながら祭りを楽しんだり、ボランティアの催しを心待ちにしているがコロナ禍により踏み止まっている。裏手には広い畑があり、季節に合わせて種まきから収穫、調理、美味しく食べるまでのサイクルを日々の生活の中に取り込んでいる。入居者は草取りや水まき、収穫などをその時々自身の状況に合わせて職員と共に無理のない程度に手伝い、季節感や達成感を味わっている。ラインを利用したビデオ通話を導入したり、ブログで入居者の様子を配信し家族に思いが届くよう努めている。電子ピアノが置かれ歌を歌ったり、野鳥の鳴き声を聞いたり、いちようや紅葉などの木々から四季折々の変化を感じたり、ウッドデッキで日光浴を楽しんだり、風や陽の光を感じながら散歩を楽しんだりして穏やかに暮らしている。入居者は温かい日差し注ぐ居間でテレビを観たり、談笑しながらゆったり過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和3年10月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である、「安心・信頼・人財」に基づき、身近な地域で人が自立した生活を送れるよう支援している。 法人内で作成したチェックリストを用いて、理念を理解できるようにしている。	理念を玄関に掲げ事業所の基本理念を目標に入居者や職員が幸せだと感じられる施設づくりを目指している。職員はチェックリストを用いて自己のケアを見直したり、職員相互に気付きや促しをしながら理念を見失わないように共有を深め、実践に結びつくように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板などから地域の情報を得ている。盆踊りやお祭りへの参加、文化祭では、毎年作品を展示し、皆で見学にも行っている。子供の廃品回収やゴミステーションの掃除も当番制で行っている。	町内会に加入し回覧板などから地域情報を得て行事に参加しているが、コロナ感染予防のため盆踊りやお祭りは中止となっている。現況では、文化祭に作品展示で参加をしたり、地域のごみ置き場の清掃など当番制で参加している。回覧で募金の協力や行事のお知らせには協力するように心掛け、地域の一員として交流できるよう努めている。コロナ禍により事業所で行う夏祭りの参加の呼びかけや中学生の職場体験、地域ボランティアの受け入れは踏み止まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の際には、近所の方に声をかけ、参加を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年に6回行っており、入居者のご家族や半田市の高齢介護課の職員、法人の高齢統括が参加している。会議ではプロジェクターを使用し、行事の様子などをわかりやすく報告をしている。コロナ禍においては書面のみでの通知や別会場を借りて行っている。	入居者家族や市職員、法人高齢統括、施設職員の参加を得て年6回実施しているが、新型コロナの感染予防のため書面による開催や会場を変更したりして状況を確認しながら実施している。今年度は事業所の運営状況や活動内容、事故報告、新型コロナ対策、ブログの紹介やライン登録依頼などを議題としている。返信用封筒を同封し、議題に対する意見や要望などを聴取して、職員間で話し合いサービスの向上に活かしている。	地域密着型の施設として、地域情報を得たり、施設の様子を知ってもらう機会として運営推進会議に地域代表や民生児童委員等のパイプを築き、出席を要請することで、今まで以上に地域と繋がりが堅実になるよう準備しておくことを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂き、助言を受けている。会議録等はメールやFAXを使わず、直接市役所へ持って行くようにしている。不明な事があればすぐに確認し、対応が出来る。	毎回運営推進会議に市職員が出席し情報やアドバイス等を受けている。コロナ禍に於いてメールやファックス、電話などで情報交換をしているが、必要に応じて運営推進会議の議事録を持参したり、介護保険の申請代行などで窓口を訪れ、事業所の実情やケアサービスの取り組みなど伝え協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に研修や委員会活動を行っている。研修にはYouTube等の配信動画を活用している。	「身体拘束適正化委員会」を3か月毎に開催し、拘束に対する具体的な行為や事業所独自の指針を作成して職員の共通認識を図っている。職員は身体拘束をしないケアを基本にスピーチロックや心の拘束の排除に取り組んでいる。コロナ禍により事業所内の研修が主流になり、カンファレンス時に合わせて動画を紹介している。個別で動画やインターネットの研修や管理者が個別に資料を配布したりして身体拘束についての理解と周知を図り技術の向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の設置、定期的な研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修等に参加している。オンライン教材の活用、YouTubeの配信動画にて研修としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や内容の変更があった際は書面だけでなく、口頭でも説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に意見を聞き、反映に努めている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、家族からは、コロナ禍により面会は状況を確認しながら流動的な対応の中で聴取している。また、電話連絡や運営推進会議等で意見や要望を聞く機会もある。意見、要望等は「家族の意見記入ノート」に記録し、職員間で共有し、ケアや業務改善に役立てている。また、ラインを利用したビデオ通話を導入したり、ブログで入居者の様子を配信し家族に思いが届くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課や職員会議等で意見を聞き、反映に努めている。人事考課は年に2回行っている。	日常の業務の中や引継ぎ時、職員会議で意見や要望を聞き運営に反映させている。年2回人事考課制度を導入し職員はチェックリストにより自己評価して自らの力量を正しく理解し把握している。また、管理者評価も加え、やりがいや向上心を持って取り組める環境の提供やケアのレベルアップに繋げている。今年度はオンラインで職員と管理者、本部とで三者面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会が設けられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回行い、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加したり、資格の取得にも積極的にすすめている。インターネット教材、eラーニングも取り入れ、知識の向上を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で他の施設に見学に行ったり、行事などの応援に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には見学に来て頂き、施設の雰囲気を感じて頂いている。面接も行い、不安な事が少しでも無くなるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族の要望や本人の希望に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	板山ホームらしく楽しんで過ごしていきたいかを相談しながらケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは自分でやれるよう、声掛けや介助を工夫に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を募っている。また、個別の相談にも対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的なボランティアの来所により、馴染みの関係が築けるよう努めている。コロナ禍においては、なかなか支援が行えていない。	アセスメントシートで生活歴や大切にしてきた人や場所、物事を把握し、継続できるように努めている。コロナ禍に於いてできる事の制限はあるが、日常の家事仕事や畑仕事など今まで培った経験と得意分野を楽しみながら日常に活かす支援をしている。家族と携帯で話したり、新聞やチラシを見るなどコロナ禍でもできる継続支援に努めている。洋服やお菓子の訪問販売、買い物、家族とお墓参りや外泊などの支援が再開できることを願っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席に配慮したり、レクリエーション等で協力し合ったりして友好的関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	永眠退所がほとんどなので、あまり関係性が継続はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等で本人の意向を話し合い、ケアプランに反映している。	日常の入居者との関りやさりげない会話、表情などから思いや意向の把握をしている。新聞やチラシを見ている時間やゆっくりしているタイミングで入居者に寄り添い思いや希望を聞いている。感じ取ったことは記録に残し、随時職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方には、家族の協力を得たり、生活歴を参考にして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態を個人記録に残し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で本人や家族の意向を話し合い、ケアプランに反映している。	毎月のカンファレンスで情報交換を行い、モニタリングをしている。医師の意見を参考にして入居者や家族の意向や要望等を踏まえながら、担当職員やユニットリーダー、看護師、ケアマネジャーがチームとなり6か月ごとに介護計画の見直しを行っている。状態の変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入や、全体だけでなくユニット毎の連絡ノートなどで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的な往診で基本的には納得いただいている。	入居時にかかりつけ医か協力医かの希望を聞いている。定期的な往診が受けられる内科の協力医に変更される方が多い。看護師が職員として勤務し24時間連絡可能な体制を整え、健康管理に努め、診察結果は家族に報告をしている。専門医の受診は家族の協力を得ているが困難な場合は支援をしている。受診結果は、職員で周知しケアに活かしている。身体状況に変化があった時や緊急時は、医師や看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	困ったことがあればすぐに看護師へ報告するようにし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は家族や病院と定期的に連絡を取りながら情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前指定書にて重度化した際の同意書を取っている。早い段階から家族への連絡を行い、対応と一緒に考えている。見取りの実績もある。	入居時に重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は、早い段階から家族や医療関係者、職員等で話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるよう努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。看取り介護に入る場合は医師が家族に説明をし同意を得ている。職員は法人内の研修やインターネットを活用した研修を行い、コロナ禍に於いても変わらない看取りの対応と支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修へ参加している。インターネット教材の活用。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。	年2回火災を想定した消火訓練と避難訓練を昼間、夜間帯の職員で実施している。内1回は、消防職員立会いの下に訓練を実施し、避難誘導の方法や避難場所などのアドバイスを受けている。昨年から災害時のシミュレーション訓練、機器の取り扱いや手順などの確認も行っている。備蓄品は、水や食料品など1週間分とカセットコンロ、プラ食器などを準備している。敷地内には飲用として利用できる井戸水がある。地域との協力体制は今後の課題となっている。	最近では想定外の災害が多く発生していることから、事業所の立地の利点を活かし地域の災害時に事業所としてできる事や事業所職員だけではできないことなどを検討していくことを望みたい。また、職員会議や運営推進会議などを利用して地域と繋がり、事業所の入居者と地域住民がより安心・安全な暮らしができることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の接遇委員会への参加。マニュアルの活用。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、家族の意見を聞きながら誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中では、入居者の個性や性格を考慮した言葉かけや対応をしている。また、接遇委員会のチェックリストを活用して具体的な行動を確認し、知識や技術の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で出てきた希望を、誕生日やレクリエーション等で叶えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等も無理強いせず、本人の希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物へ出かけたり、出張で服屋さんに来て頂き、おしゃれが出来る様支援している。 散髪に2か月に1回程度来て頂いている。コロナ禍においてはその頻度が減っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の畑で種まきから収穫まで一緒に行い、調理も手伝って頂いている。	担当職員が入居者の希望や季節の食材、栄養バランスに配慮して献立し、食材は業者に発注して毎食手作りしている。菜園で収穫した季節の野菜や栗、柿など入居者と一緒に調理して食卓に彩を添えている。入居者は保有能力に合わせて調理や盛り付け、後片づけなどを職員と一緒にやっている。コロナ禍でも季節や行事に配慮したアイデア満載のおやつ作り、テイクアウトやピザの宅配、寿司や牛丼などを注文して食事の楽しみや雰囲気盛り上げる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて食事や水分の摂取量の把握をしている。毎月1日に体重測定を行い、少しの変化にも気付けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。痛み等があれば歯科に相談し、治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合ったパットやオムツを使用している。排泄チェック表を基に排泄パターンを掴み、トイレ誘導、パット交換を行っている。	排泄チェック表を参考に、個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。トイレで排泄の支援を優先し自立支援に向けた取り組みを行っている。夜間でも尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、声掛けや離床センサーを利用して丁寧な見守りと誘導を行っている。必要に応じて夜間のみポータブルを利用するなど、個々の状態に合わせた支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝にヨーグルトや牛乳、乳酸菌飲料を提供している。排便確認を毎日行い、下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員不足により、希望に沿えないことがある。週に3回を目安としているが2回になることもある。入浴が行えない日は肌着を交換したり、陰部洗浄を行ったりしている。	入浴は体調を考慮しながら週2回としているが、希望があればいつでも入浴できる環境を整えている。身体状況に合わせて個浴か特殊浴槽を選択して誰もが湯船につかることができる環境を整えている。浴室の清潔を保持し冬季は暖房にも配慮している。季節を感じるゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を利用し入浴を楽しめる配慮をしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫し、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や状態により日中に休養をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットを職員が行い、目的等を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力を生かして調理や編み物等をやっている。花を育てたり、メダカのお世話をやりがいを持って行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的ではなく、行事や誕生日、家族との外出で希望に沿えるよう努めている。	豊かな自然環境に恵まれ、四季の移ろいを感じながら日々の散歩や近くの薬局、スーパーに出掛けられる環境にあるが、コロナ禍により踏み止まっている。今は、畑の水やりや草取り、ウッドデッキでの散歩、メダカの餌やりや洗濯物干し等外気に触れる機会を多く取り入れている。新型コロナの感染状況を見ながら、入居者や家族の要望に応えられるよう支援方法を工夫し、外食や車でドライブをしながら梅や桜、彼岸花など季節の花が楽しめるよう検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所中現金を使うことがあまりないため、基本的には現金を持たせていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	タブレットを使用し、LINEのビデオ通話を取り入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に季節に沿った壁面飾りを行い、季節感を出している。	高い天井の天窗からの自然な採光や風を取り入れている。ユニットを繋ぐ広いウッドデッキでメダカを育て、畑の野菜や庭木で季節を感じ、心に安らぎを与えてくれる環境にある。居間と食堂がワンフロアの共用空間にはソファスペースもあり開放感がある。行事の写真や季節に応じた作品などを華美にならない程度に飾り、落ち着ける環境作りをしている。入居仲間と家事仕事や談笑したり、音楽やテレビを鑑賞したりして心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大体の定位置がそれぞれできており、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の物は基本的に持ち込んで頂いている。入所前に使用していた物を持ち込んで頂く工夫をしている。	居室は和室と洋室が用意されている。ペットやエアコン、クローゼットが備え付けられ、冬季は加湿器を置いている。また、使い慣れたテレビや家具、小物などを持ち込み、写真や手作り作品も飾って安心できる環境を整え、入居者のペースで日常生活が送れるように支援している。職員と一緒に掃除をして清潔で居心地の良い自分の部屋作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	扉の色を居室、トイレ、ふろ場と分けていたり、個室には本人の名前をつけさせて頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400552		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	板山ホームらく楽 (南ユニット)		
所在地	愛知県半田市椎ノ木町4丁目13-2		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・季節感を感じられる行事を豊富に行っている。 ・行事に合わせてブログを更新し、外部にも発信を行っている。 ・畑をやっており、種まきから収穫、調理を楽しんでいる。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/z3/index.php?act=for_kouniyou_detail_022_kani=true&ligvosvcId=2372400552-
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅が点在する高台の上に事業所が位置している。モダンな外観の平屋建てで、回廊するウッドデッキや緑豊かな庭や畑が広がる佇まいはリゾート地を思わせるような雰囲気である。職員は、入居者と「共に生きる」を信条に、入居者の趣味や今やりたい事などを日々の生活に活かし、喜びや自信に繋げるようなケアに心がけている。地域の神社の祭礼や盆踊りなどに参加し、入居者は昔を懐かしみながら祭りを楽しんだり、ボランティアの催しを心待ちにしているがコロナ禍により踏み止まっている。裏手には広い畑があり、季節に合わせて種まきから収穫、調理、美味しく食べるまでのサイクルを日々の生活の中に取り込んでいる。入居者は草取りや水まき、収穫などをその時々自身の状況に合わせて職員と共に無理のない程度に手伝い、季節感や達成感を味わっている。ラインを利用したビデオ通話を導入したり、ブログで入居者の様子を配信し家族に思いが届くよう努めている。電子ピアノが置かれ歌を歌ったり、野鳥の鳴き声を聞いたり、いちようや紅葉などの木々から四季折々の変化を感じたり、ウッドデッキで日光浴を楽しんだり、風や陽の光を感じながら散歩を楽しんだりして穏やかに暮らしている。入居者は温かい日差し注ぐ居間でテレビを観たり、談笑しながらゆったり過ごしている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和3年10月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である、「安心・信頼・人財」に基づき、身近な地域で人が自立した生活を送れるよう支援している。 法人内で作成したチェックリストを用いて、理念を理解できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板などから地域の情報を得ている。盆踊りやお祭りへの参加、文化祭では、毎年作品を展示し、皆で見学にも行っている。子供会の廃品回収やゴミステーションの掃除も当番制で行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の際には、近所の方に声をかけ、参加を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年に6回行っており、入居者のご家族や半田市の高齢介護課の職員、法人の高齢統括が参加している。会議ではプロジェクターを使用し、行事の様子などをわかりやすく報告をしている。コロナ禍においては書面のみでの通知や別会場を借りて行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂き、助言を受けている。会議録等はメールやFAXを使わず、直接市役所へ持って行くようにしている。不明な事があればすぐに確認し、対応が出来る。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を設置し、定期的に研修や委員会活動を行っている。研修にはYouTube等の配信動画を活用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の設置、定期的な研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修等に参加している。オンライン教材の活用、YouTubeの配信動画にて研修としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や内容の変更があった際は書面だけでなく、口頭でも説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に意見を聞き、反映に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課や職員会議等で意見を聞き、反映に努めている。人事考課は年に2回行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回行い、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加したり、資格の取得にも積極的にすすめている。インターネット教材、eラーニングも取り入れ、知識の向上を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で他の施設に見学に行ったり、行事などの応援に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には見学に来て頂き、施設の雰囲気を感じて頂いている。面接も行い、不安な事が少しでも無くなるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族の要望や本人の希望に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	板山ホームらく楽でどう過ごしていきたいかを相談しながらケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは自分でやれるよう、声掛けや介助を工夫に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を募っている。また、個別の相談にも対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的なボランティアの来所により、馴染みの関係が築けるよう努めている。コロナ禍においては、なかなか支援が行えていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席に配慮したり、レクリエーション等で協力し合ったりして友好的関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	永眠退所がほとんどなので、あまり関係性が継続はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等で本人の意向を話し合い、ケアプランに反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態を個人記録に残し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で本人や家族の意向を話し合い、ケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入や、全体だけでなくユニット毎の連絡ノートなどで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的な往診で基本的には納得いただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	困ったことがあればすぐに看護師へ報告するようにし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は家族や病院と定期的に連絡を取りながら情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前指定書にて重度化した際の同意書を取っている。早い段階から家族への連絡を行い、対応と一緒に考えている。見取りの実績もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修へ参加している。インターネット教材の活用。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の接遇委員会への参加。マニュアルの活用。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で出てきた希望を、誕生日やレクリエーション等で叶えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等も無理強いはせず、本人の希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物へ出かけたり、出張で服屋さんに来て頂き、おしゃれが出来る様支援している。 散髪に2か月に1回程度来て頂いている。コロナ禍においてはその頻度が減っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の畑で種まきから収穫まで一緒に行い、調理も手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて食事や水分の摂取量の把握をしている。毎月1日に体重測定を行い、少しの変化にも気付けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。痛み等があれば歯科に相談し、治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合ったパットやオムツを使用している。排泄チェック表を基に排泄パターンを掴み、トイレ誘導、パット交換を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝にヨーグルトや牛乳、乳酸菌飲料を提供している。排便確認を毎日行い、下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員不足により、希望に沿えないことがある。週に3回を目安としているが2回になることもある。入浴が行えない日は肌着を交換したり、陰部洗浄を行ったりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や状態により日中に休養をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットを職員が行い、目的等を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力を生かして調理や編み物等をやっている。花を育てたり、メダカのお世話をやりがいを持って行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的ではなく、行事や誕生日、家族との外出で希望に沿えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所中現金を使うことがあまりないため、基本的には現金を持たせていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	タブレットを使用し、LINEのビデオ通話を取り入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に季節に沿った壁面飾りを行い、季節感を出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大体の定位置がそれぞれできており、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の物は基本的に持ち込んで頂いている。入所前に使用していた物を持ち込んで頂く工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	扉の色を居室、トイレ、ふろ場と分けていたり、個室には本人の名前をつけさせて頂いている。		